第４章：都市の繁栄

産業革命後、特に先進国において急激な都市化が進みました。

アメリカでは、企業の成長、交通機関の整備、製造業およびその他の産業の発達が、新しい都市生活をもたらしました。都市における巨大なメトロポリタンエリアの発達は、人口の規模や住民に与えられるビジネス・チャンスなどの面で都市間にライバル意識を生みました。

アメリカのいくつかの都市は、発展に伴い経済的に多様化しました。他のいくつかの都市は、鉄や石油など特定の産業の拠点として発達し、その地域の経済に大きな影響を与えました。

アメリカの若い市や街において、都市計画は都市化の象徴でした。都市計画は市のサービス、公安、保健衛生、その他メトロポリタンエリアをより生活しやすい場所にするための様々な課題に対する意識を高めました。

19世紀のアメリカの典型的な都市は、その土地の工場がどれほどの煙を排出するかで都市の富を評価していました。資本家たちは、自分達の都市の発展の象徴として「See our smoke （我々の煙を見よ)」という表現を使っていたほどです。その後、これらのアメリカ初期の都市は、計画的なサービスと市民による社会改善運動により新しいモダニズムを実践し、徐々に煙と泥を削減し永続的な力を維持するに至りました。

日本では、明治維新以後、近代化の波とともに、都市化が進みました。日本の近代化を宣伝するために広く頒布された錦絵や写真には、都市が繁栄する様子が多く描かれたり、写されたりしました。それらの画像には、都市が繁栄する要素が散りばめられています。いくつか拾い集めてみましょう。

最初は、人が賑やかに行き交う町の様子です。都市における人口の増加が読み取れます。

第二は、近代建築が建ち並ぶ様子です。日本の場合、木造住宅が建ち並ぶ町の風景が中心でしたが、石造り、煉瓦造り、コンクリート造りによる建築が建ち並ぶようになりました。この変化を近代都市の象徴として捉えているのです。

第三に、舗装された道路や敷かれた線路と、そこを通る車馬や鉄道です。交通機関等の整備により都市間のネットワークが結ばれ、コミュニケーションの輪が一層の広がりを持つようになったことも近代都市の一つの要素として捉えています。

そして最後に、街灯をはじめとして、役所や学校など、さらには工場、会社・商店等の諸施設が描かれます。これらは生活者が必要とし、都市の機能として欠かせない施設なのです。

ただ、都市には、錦絵にも描かれず、写真にも写されることがなくても、都市生活者には欠かせない施設もありました。例えば、病院、公共墓地、浄水場、刑務所、火葬場、塵芥処分場等があげられます。

都市機能が整備され、経済発展が見られる中で、多くの人々が快適な生活環境を確保できるかが、都市の繁栄にかかっているのです。

Chapter 4:
Urban Development in Japan and America

After the Industrial Revolution, rapid urbanization took place in developed countries. In Japan, urbanization progressed along with modernization since the Meiji Restoration (1868). Many of the *nishiki-e* (wood-block prints) and photographs that were distributed to advertise Japan's modernization had the images of prosperous cities.

In those pictures, we can pick up the elements that enabled cities to prosper.

First thing to note is an appearance of the city in which people are coming and going. We can see that the population of the city has increased.

Secondly, we see modern buildings standing in rows. Traditionally, central to the landscape of Japanese towns were wooden houses; we can see that the architectures made of stone, bricks, and concrete are now being built. These visual images grasp this change as a sign of modern cities.

Thirdly, we see cars and horses on paved roads and trains on the railroad. By establishing the transportation system, cities were connected through a network, which allowed people a wider circle of communication. This is also perceived as a sign of modern cities in these visual images.

Finally, take a note of the facilities such as streetlamps, public offices, schools, factories, company buildings and shops depicted in the pictures. These are the facilities necessary for people and indispensable for the city to function.

Of course, there were other facilities, which were, although never depicted in *nishiki-e* or photographs, absolutely necessary for the people living in the city – for instance, hospitals, public cemeteries, filtration plants, prisons, crematories, and dumping grounds.

Once various functions of the city are equipped and economic growth observed, the prosperity of the city depends on whether or not the comfortable living environment for people can be maintained.

The growth of business, better transportation patterns, increased manufacturing and industry created a new urbanism in America. The development of cities into huge metropolitan areas led to a competitive spirit among towns for population and business opportunity for its citizens.

Some American cities diversified economically as they grew. Others were identified as outfitters for a specific industry which became all important to the economy of that location, such as steel or oil.

Town planning was symbolic of urbanism, even in young American towns. This led to an increased concern for city services, public safety, health and those key aspects of urban growth which make metropolitan areas tolerable.

The typical urban center in 19th century America gauged its worth often by how much smoke its factories produced. There was even an expression "See our smoke" that town backers used as symbolic of progress. These early towns began to reflect a new modernism, with planned services and civic improvements, gradually overtaking the smoke and mud for permanency and staying power.

凌雲閣機絵双六

（りょううんかくからくりえすごろく）　4代目国政筆、1901年

凌雲閣は、1890年11月、東京・浅草6区のはずれに開業した観光施設です。全体で12階あったことから浅草12階とも呼ばれており、8階まではエレベーターに客を乗せていました。この図は、絵双六（すごろく）です。子供の遊び道具なので、玩具絵ともいえます。

細かな仕掛けが施されていて、外壁の窓を左右に開くと内景が現われ（写真）、さらにその一部を上へめくると中心部を昇降するエレベーターが現れます。二重の仕掛けになっている機（からくり）絵であり、遊び心を掻き立てる錦絵です。

"Ryounkaku karakuri-e sugoroku"

Pictorial Sugoroku Game (Japanese Parcheesi) of the Ryoun-kaku Building.　Kunimasa, IV, 1901

Ryounkaku was opened in November 1890 as a tourist attraction at the edge of Asakusa, Tokyo. It was nicknamed "Asakusa juni-kai" (Twelve Floors of Asakusa), as it was twelve-storied building with an elevator going up to the 8th floor. This is an "e-sugoroku," (illustrated parcheesi), a.k.a. omocha-e (toy picture), as it served as a toy for children.

This picture contains various tricks: when the windows are opened, the interior of the building appears and, when a part of the interior is opened, an elevator moving up and down appears. It is a charming, fun nishiki-e.

凌雲閣機絵双六、1890年

Ryounkaku-karakuri e-sugoroku

"Pictorial Sugoroku Game (Japanese Parcheesi) of the Ryoun-kaku Building"

東京自慢人形町通り水天宮繁栄之図、1882年

Tokyo jiman Ningyocho-dori Suitengu han'ei no zu

"Tokyo's Pride: Prosperity of Suiten-gu Shrine on Ningyo-cho Street"

東京銀座通電気燈建設之図、1883年

Tokyo Ginza-dori denkito kensetsu no zu

"Building Electric Lights in the Streets of Ginza, Tokyo"

江戸時代の水道管

edo-jidai no suido-kan

Water Pipe from the Edo Era (18th-19th century)

The Rise of Cities

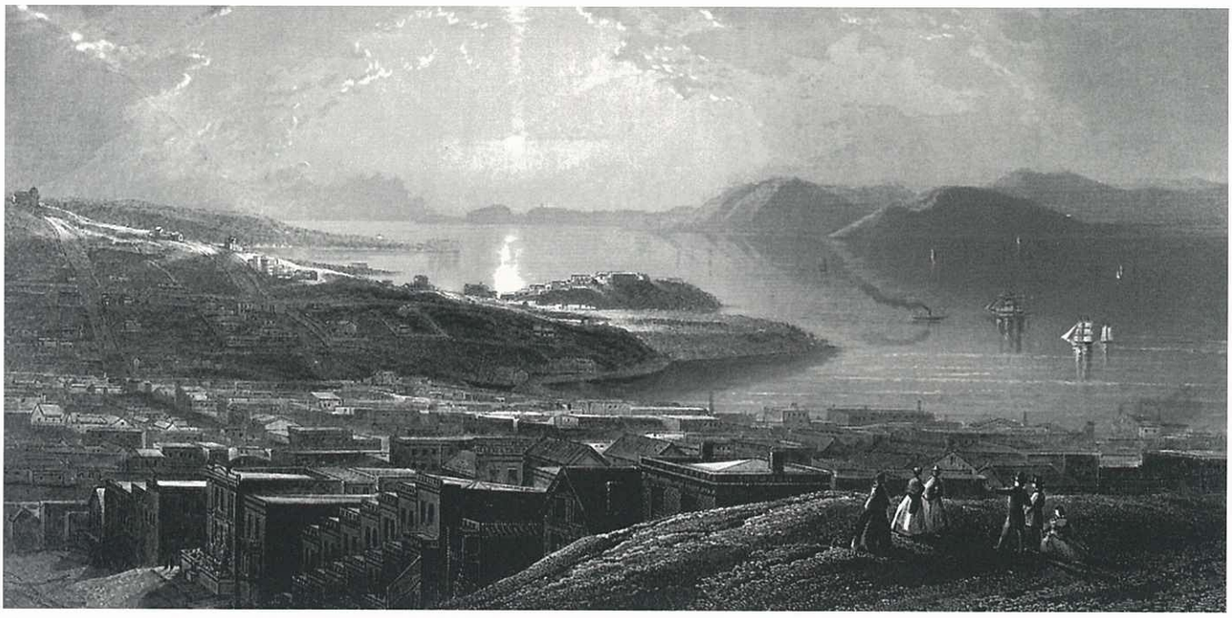
Prosperity in cities came with the linking of east to west and north to south, through rail, rivers and canals, and shipping ports. Civic pride and competition led all the American cities and towns to follow their destiny, to succeed on the metropolitan stage, and their growth is documented through views in books, city plans and prints for the specific promotion of individual areas. The nineteenth century in America was an age of town-boosters to the largest extent. Below is a famous view of St. Louis in its commercial glory as the largest city west of the Appalachian mountains. The view was painted by a house and sign painter, Henry Lewis, who became through study of art in Europe a great painter of huge pictures known as moving panoramas, which were slowly unrolled on spindles to audiences in theaters – much like movies today. The length of the Mississippi River Valley was a logical subject, with its greatest city made the climax, and this painting in the mid 19th century was used to encourage immigration and settlement. This optimistic scene shows the various symbols of a large American mercantile center before the age of railroads, with the urban core of warehouses and teeming packing companies meeting the great packet boats at water's edge, linking the early trade of a thousand miles in any direction.

都市の発達

鉄道、河川、運河や港で東西南北が繋がれたことにより都市が繁栄しました。市民の誇りやライバル意識が芽生え、アメリカの全ての都市や町を、それぞれの運命へ、大都市としての活躍の場へと導きました。都市の発達の様子は、書籍、都市計画、各地域のプロモーション用の印刷物に記録されました。アメリカでの１９世紀は、都市の発展に大いに貢献した人々の時代と言えるでしょう。下の絵は、アパラチア山脈の西に位置する最大の都市として、商業的栄光に輝くセントルイスを描いた有名なものです。この絵の作者は、ペンキ屋・看板描きだったヘンリー・ルイスです。彼は、ヨーロッパで絵の勉強をし、「動くパノラマ」と呼ばれた巨大な絵を描く偉大な画家として名を馳せました。これは、劇場の観客の前で軸の上をゆっくりと回して広げられていく絵のことで、現代の映画のようなものと言っても良いでしょう。ミシシッピ川渓谷の距離の長さは、当時の絵のテーマとしては必然的なものであり、そこにある最大級の都市セントルイスがクライマックスとして描かれています。この絵は、１９世紀半ばに移民や開拓を奨励するためにも使われました。この楽天的な風景は、鉄道の時代が始まる以前のアメリカ商業中心地の様々なシンボルを描いています。都市の中核であった倉庫や混み合いながら立つ包装出荷業の建物が、水際で立派な定期船と出会い、全ての方角に向かって何千マイルにも及んでいた初期の交易の様子が描かれています。

St. Louis, 1854

セントルイス、1854年



The Golden Gate in San Francisco Bay in 1871

サンフランシスコ湾の金門海峡、1871年

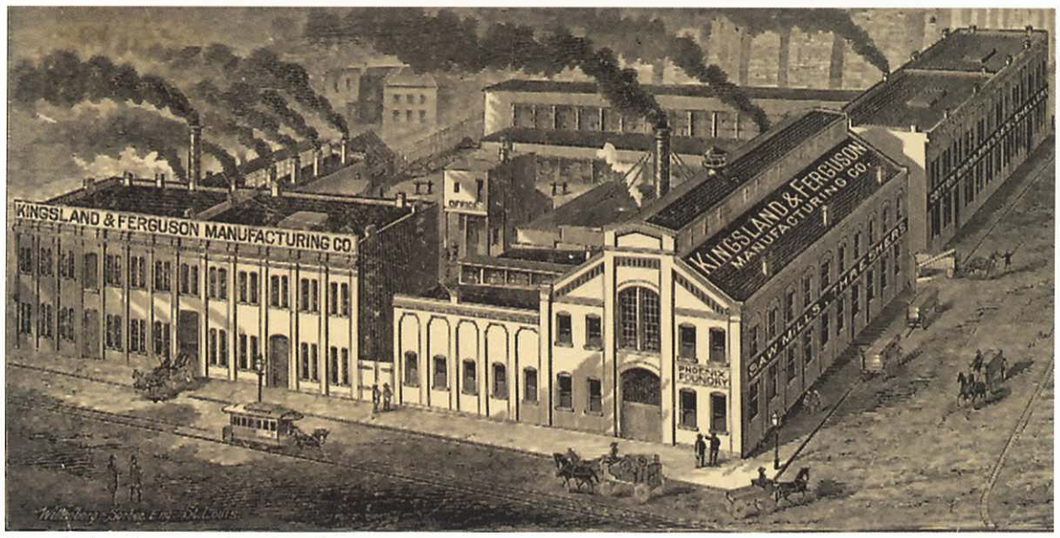
第一大区京橋商店煉瓦石繁栄図

daiichi daiku Kyobashi shoten rengaishi han'eizu

"Thriving Business of Kyobashi Shoten Store, Adorned with Bricks, in First Ward, Tokyo"

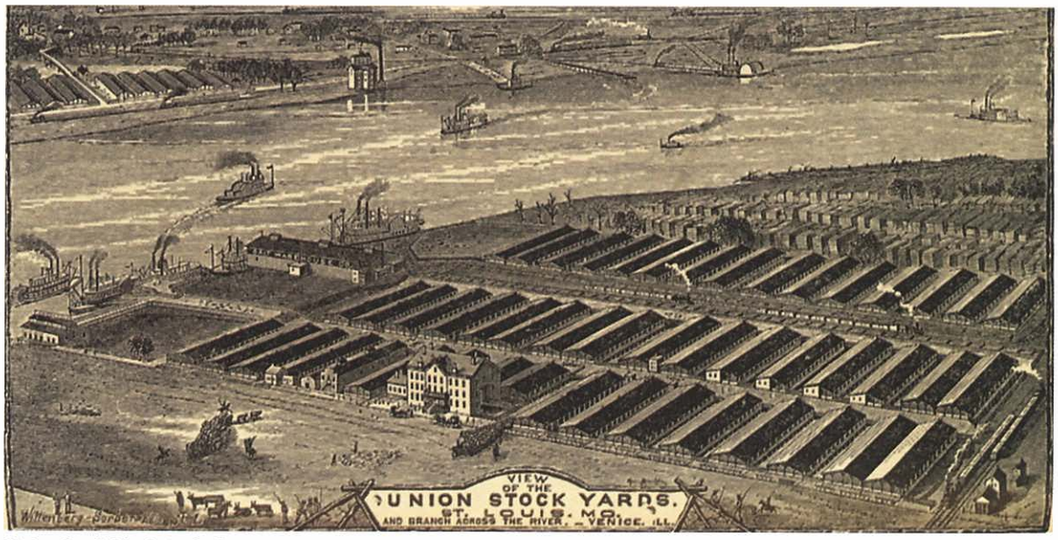
New Orleans, 1854

ニューオリンズ、1854年



An early American manufacturing plant

アメリカ初期の製造工場



Union Stock Yards in St. Louis, 1870

セントルイスのユニオン・ストック・ヤーズ、1870年

第５章：生活

近代化・産業化とともに都市化が進むなか、人々の生活に様々な変化がみられます。まずはアメリカの様子からみてみましょう。

アメリカ建国の父のひとりであるトーマス・ジェファーソンはアメリカの将来像として、自らの土地を耕し生計を立てる自作農民を中心とする国を思い描きました。実際に、農業はアメリカの経済活動全体の根幹となり、この国の富と権力の源泉となりました。しかし、単純な農業経済は市場の主導による経済ではなく、人々の生活を大きく変えるものでもありませんでした。

都市や街の発展に伴い人々の生活は改善されました。しかし同時に、都市化には人間味を低下させる側面もありました。市民のリーダーシップや都市計画者が台頭し、産業、経済、起業家の発展と並行して市民の生活や余暇の質を高めようとする取り組みが進められました。アメリカの企業経済の発展に強く対立したのは、その経済成長を努力と汗で支える労働者たちの生活を改善しようとした様々な改革派の活動でした。

労働者の生活環境の改善は市民のための施設やサービスの充実により実現されました。具体的な例を挙げると、都市では学校やその他の教育機会の整備、余暇の充実や祝日の制定、病院の建設、治安の維持、公衆衛生、公共交通機関の整備、児童労働法の制定および衛生局の創立、最低賃金および労働時間の基準の設定などが進められました。

市民による社会改善活動により人々の生活に変化がもたらされたのに加え、市民の政治参加が積極的になって日々の問題の解決に大衆の声が取り入れられるようになり、経済や社会に関する政策の制定における市民の参加の度合いが一層高まりました。アメリカ合衆国の金融政策および経済理論は1900年までにほぼ確立され、国民の生活はしっかりとした経済政策や規制に支えられ、不況時の市場の混乱や銀行の取り付け騒ぎなどが減少しました。

しかし、市民の懸念は歴史のあらゆる局面において存在しました。ジャクソン大統領が国立銀行に対しておこなった改革、19世紀半ばに立て続けに起こった経済の混乱、金本位制についての論争、20世紀初頭の国家債務超過および不況などの全てが、健全な企業活動と安定した経済の上に生活を成り立たせる人々の思考、懸念、心理的状態に影響を与えました。

日本では、消費の増大が一つの特徴として捉えられます。

江戸時代中期以降、貨幣経済の浸透は、人びとの生活のなかに生産・消費という関わりあいを増大させました。ものをつくり、交通の発達によりそれが各地に運ばれ、各都市でそれが消費されるという流れが形成されていったのです。

「商売」は人びとがものを消費する行動を促す一つの契機です。江戸時代以降、都市では店をかまえて商売をする「店売り」が一般的になりつつありました。各店はその商売を象徴する看板を店先に掲げて、客の来店を促したのでしょう。

江戸時代に花開いたさまざまな商売は、明治維新以降も受け継がれ、また発展していったものも多くありました。江戸時代の「かわら版」が先例となり、新しいメディアである「新聞」が、人びとに広まっていったのもその一つです。「商売」は人びとの日常を支える、まさに生活に欠かせないものでした。

人びとの消費活動をさらに活発なものとさせたものに「娯楽」があります。日常の生活から離れた非日常の生活である「娯楽」には、旅や、寺社・仏閣の参詣がありましたが、旅や参詣のために人びとは、旅道具をそろえ、旅先では食事やみやげ物などで消費をしたのです。

Chapter 5:
Daily Life in Japan and America

Since the middle of Edo era, the spread of monetary economy increased the presence of production and consumption. The linkage between the production, transportation, and consumption of goods was established.

"Business" is an opportunity to prompt people to be engaged in the act of consumption. Since Edo era, *"miseuri,"* that is, setting up a store in the city to do business, became fairly common. Each shop put up a business signboard in the front and welcomed customers.

Various businesses that had first emerged during Edo era continued to develop after the Meiji Restoration. One of such examples is the newspaper business, which began as *"kawara-ban"* in Edo era and quickly spread among people. "Business" was an essential part of people's daily life.

Leisure was another factor that further encouraged people's consumption. A time away from the regular routine of life, leisure for people at the time meant taking a trip and visiting temples and shrines. People spent money to prepare travel items, then spent even more for meals and souvenirs during the trip.

Thomas Jefferson had envisioned America as composed for the most part of "sturdy yeomen' or simple farmers living out their lives on their own subsistence fields. In part agriculture did become the lynchpin of the entire economic enterprise of the United States and the source of the nation's wealth and power. However, a simple agrarian economy was not to be; one that was more market driven and commercial influenced people's lives dramatically.

In the cities and towns as they grew, urbanism helped to improve daily life at times, while it was also charged with dehumanization. It was up to the rise of civic leadership and urban planners to improve the life and leisure of its citizens as industry, the economy, and entrepreneurship grew. A strong counterpoint to the growth of an American business economy has been the attempt by reformers of all sorts to improve the lives of the laborers who made this growth a reality with their hard work and sweat.

This improvement was accomplished through the nurturing and development of civic institutions: urban schools and educational opportunities, leisure time and holidays, hospitals, public safety, and sanitation, mass transit, child labor laws and health commissions, a minimum wage and a standard work day.

Coupled with civic improvement and its impact on daily life was the role of political advocacy and a public voice of the populace in daily affairs, features which went hand in hand, increasingly, with economic and public policy-setting arenas. Monetary policies and economic theory reached a high point by 1900, when larger numbers of people depended for their livelihoods on sound economic policies and standards, free from market panics and banking runs in hard times.

These concerns echo down to the present. From President Andrew Jackson's war on a national bank, to the successive economic panics of the mid nineteenths century, to the gold standard monetary controversies, to the national debt and depression in the early twentieth century, all have affected the thoughts, concerns and moods on daily life which have been in part dependent on sound business activity and economic stability.

富士山諸人参詣之図

（ふじさんしょにんさんけいのず）国輝画、1865年

幕末期の政情不安と社会の流動による物価の乱調を、富士山を信仰する人々の信仰行事である富士登山に託して戯画化した諷刺画です。

中央と右側の2枚が上昇品名で、左側は砂走りを使って下降商品を示しています。塩・豆・醤油・味噌などの生活食料品がインフレ的な値上がり状況が窺い知れます。

この時期、同種の諷刺画が、いくつも発行されました。

"Fujisan shonin-sankei no zu"

Ascending and Descending Mt. Fuji (Each climber indicates a commodity, showing its price as going up or down). Kuniteru, 1865

Climbing Mr. Fuji is a religious event for those who worship the mountain – this picture uses this religious event to caricature the ups and downs of prices and political instability at the end of the Tokugawa shogunate.

Two pictures in the center and on the right indicate the goods of rising prices, and one on the left indicate the goods of falling prices using sand scribble. We can see that the prices of salt, beans, soy sauce, and miso – daily necessities – were up.

During this period, quite a few caricatures like this one were published.

富士山諸人参詣之図、1865年

Fujisan shonin-sankei no zu

"Ascending and Descending Mt. Fuji" (Each climber indicates a commodity, showing its price as going up or down)

浅草・たわし、他日用雑貨を売る店、1939年

Asakusa: tawashi, hoka nichiyo-zakka wo uru mise

In Asakusa, Tokyo: A shop selling tawashi (scrub brush) and other daily necessities

浅草・木槌、木工具、他の店先、1939年

Asakusa: kizuchi, mokkogu, hoka no misesaki

In Asakusa, Tokyo: A shop selling wooden hammers, woodworking tools, and other things

Daily Life

The ways and methods in which Americans participated in a rising economy are endless. The life of the nation was tied to a myriad of trades, economic customs, labor saving devices and entrepreneurship written across all classes in rural and urban areas. The commercial story of the people of the first great American age of industry is preserved in diaries, books, photographs and prints. The pair of scenes side by side directly below depict the growing complexity and traditions of cities, with spider webs of telephone, telegraph and electrical wires encircling the streets, and shop fronts springing at the feet of urban canyons on the one hand, while open air entrepreneurs in markets and parks plied a myriad of products to urban inhabitants on the other, here canned foods. The traditional and the modern rhythm of daily life was intermingled in the new business economy.

生活

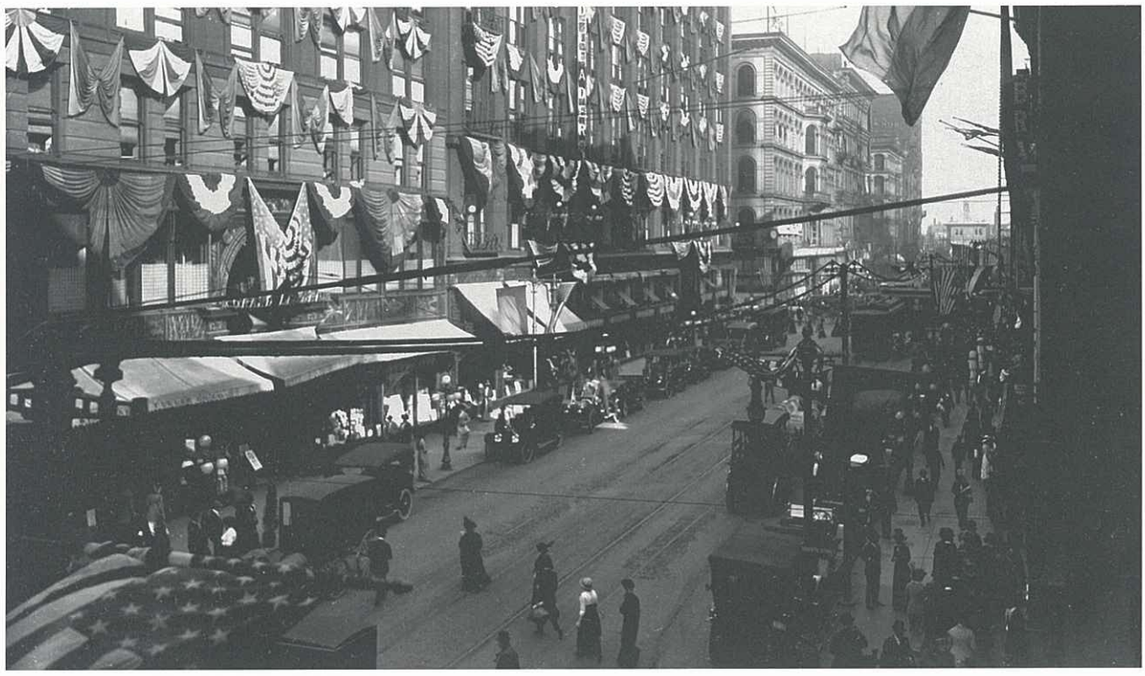
アメリカの国民はありとあらゆる方法で、自国の経済の成長に関わりました。国家の生命は、様々な交易、経済面での慣習、省力化のための設備、そして都市部や地方の全ての社会階層に散見した起業家精神などと深く結びついていました。アメリカ最初の産業時代の商売についての様々な物語が、日記、書籍、写真、その他の印刷物の中に残されています。下に並んでいる２葉の写真は、都市の中に育ちつつあった複雑さや伝統を描いています。電信、電話や電線が道路を蜘蛛の巣のように覆い、店々が都市という峡谷に沸き起こる一方で、市場や公園では露店商人たちが様々な商品―例えばこの写真の中では、缶詰―を都市生活者たちに売っていたのです。新しい商業経済の中で、伝統的な日常生活のリズムと現代的なそれとが混在していました。

Early telegraph, telephone and electrical lines in a typical American city, ca. 1910.

アメリカの一般的な都市の電信、電話および電線、1910年頃

Open air street vendors, ca. 1920.

露天商人、1920年頃



The heart of an American metropolis, store fronts, vending; and the rhythm of the urban setting; ca. 1920

アメリカ主要都市の中心部、店頭、呼売り、都市生活のリズム、1920年頃

広告　福島済生薬舘

kokoku: Fukushima saiseiyakukan

Advertisement by Saiseiyakkan Drugstore in Fukushima
("Smart Children Are Born from Healthy Parents")

看板『きせる処』

kanban "Kiseru-dokoro"

Pipe-shaped Shop Sign for a Kiseru
(Tobacco Pipe) Shop

看板（両替屋）

kanban (ryogae-ya)

Shop Sign for Money Exchange Business

矢立

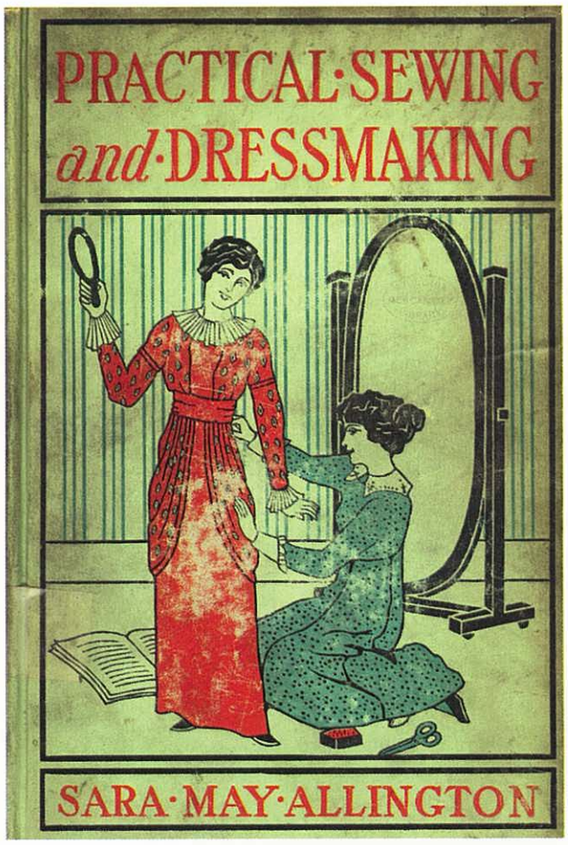
yatate

Portable Brush and Ink Case

矢立　定木つき

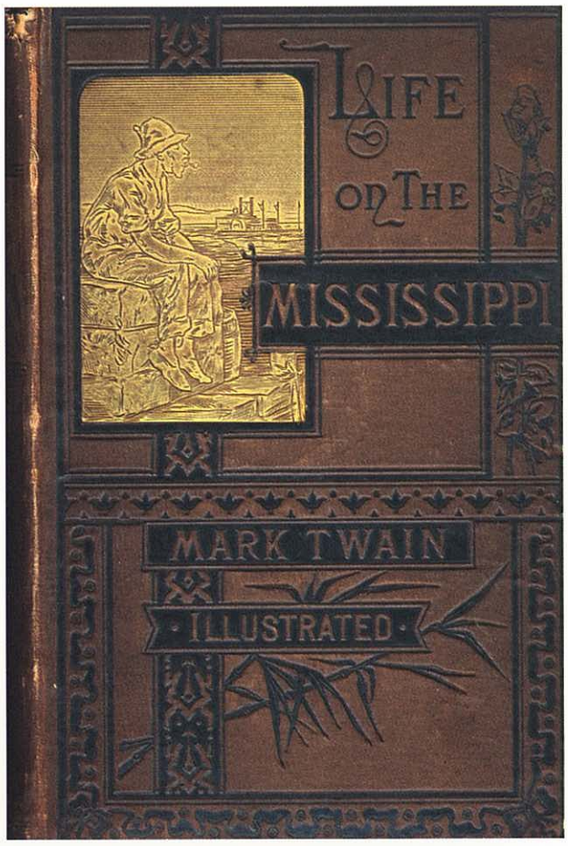
yatate: jogi-tsuki

Portable Brush and Ink Case with Ruler



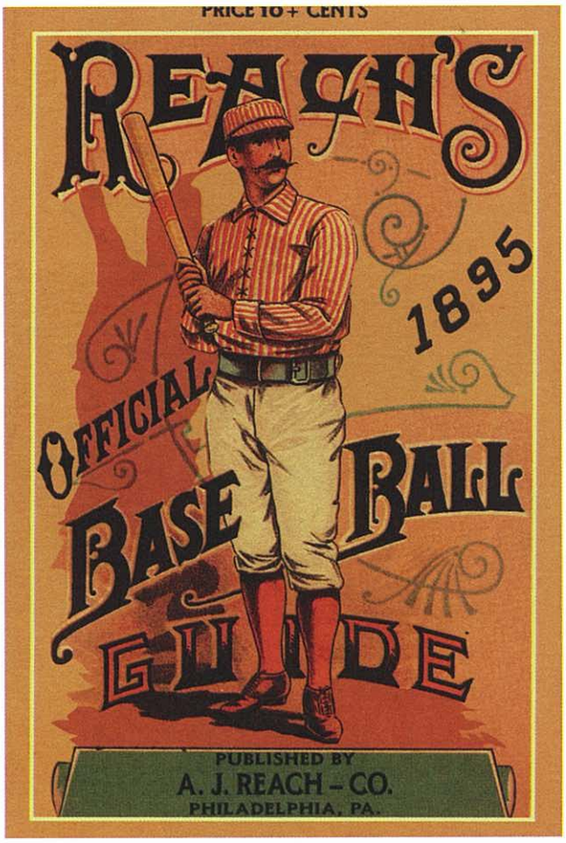
A typical guidebook to sewing and dress-making; early 20th century

裁縫、服飾の一般的なガイドブック、20世紀初頭



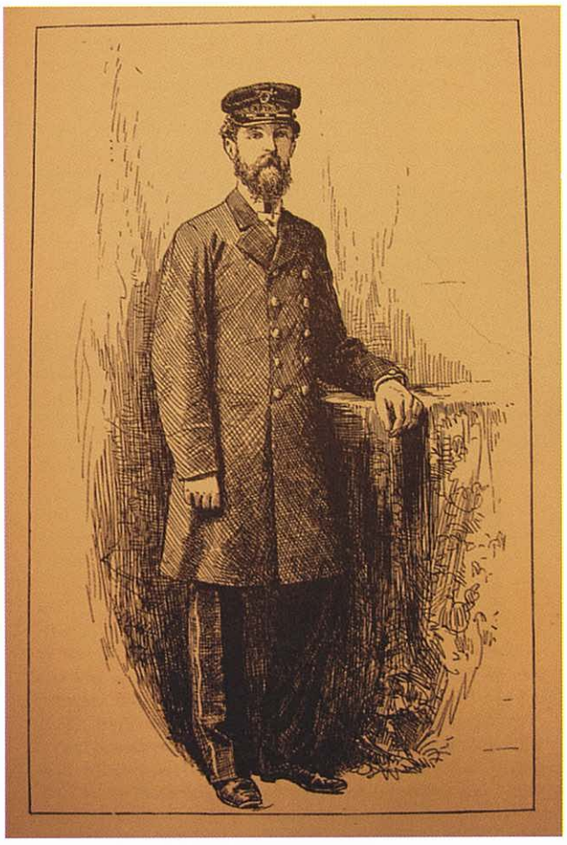
"Life on the Mississippi" by Mark Twain

「ミシシッピーの生活」マーク・トゥエイン著



Reach's 1895 Official Base Ball Guide

リーチ公式野球ガイド、1895年



An American steamboat captain, ca. 1880

アメリカの蒸気船船長、1880年頃

士族の商法、1877年

shizoku no shoho

"A Samurai Trying to Do Business"

机

tsukue

Desk

帳場格子

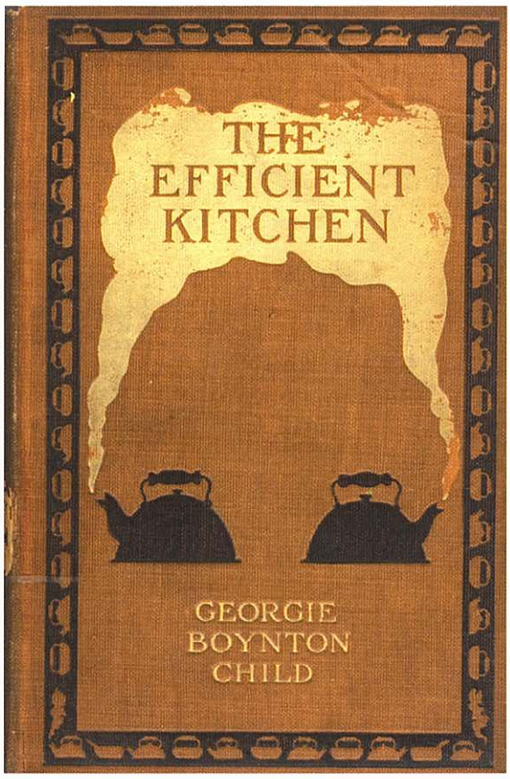
choba koshi

Lattice Divider used at the Front Desk

硯箱

suzuri-bako

Writing Box



Guidebook to cooking and maintaining a proper kitchen; early 20th century

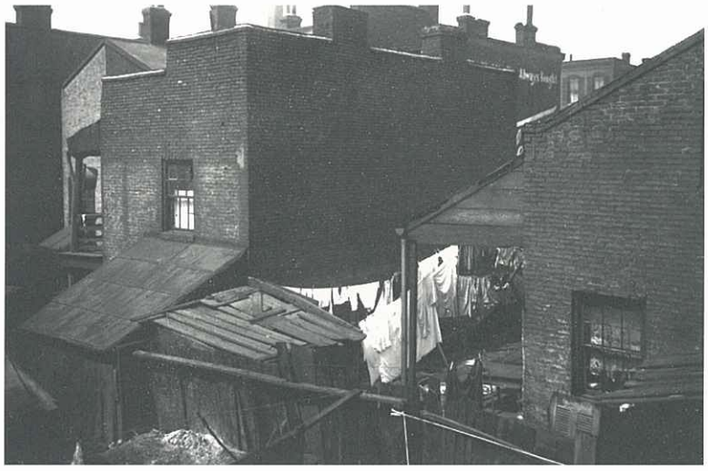
料理およびキッチンの正しい利用のガイドブック、20世紀初頭

Trade card advertisement depicting the modern convenience of a personal sewing machine; ca. 1890

個人向けミシンの利便性を伝える広告用カード、1890年頃

American street scene—
the beginnings of trolley tracks and pavements

アメリカの街頭風景－初期のトロリー・トラックと舗装道路



Early photograph of American tenement living in urban areas; ca. 1900

アメリカ都市部における共同住宅での暮らし、1900年頃

第６章：1904年セントルイス博覧会における日本とアメリカの出会い

19世紀半ば以降、イギリス、フランス、アメリカなどで開催された万国博覧会は世界の国々のコミュニケーションの場となりました。世界各地のあらゆるモノが集められ、観覧する人びとは会場を歩きながら「世界の縮図」を体感したのです。これらの博覧会の重要性については長く研究されてきましたが、当時ほど万博の必要性が感じられなくなった今、歴史の中に埋もれつつあります。万国博覧会は、アイディアを広め、新しい文化に触れ、人々を繋ぎ、開催地に選ばれた都市の市民が誇りを感じる、現在のオリンピックに匹敵するイベントでした。

1904年のセントルイス博覧会とその約10年前にシカゴで開催されたコロンビアン博覧会は、後に、19世紀の様子を伝える最後の博覧会になったと評価されるようになりました。しかし、セントルイス博覧会は、過去の成果のまとめにとどまらず、世界各国のすばらしい未来を予感させる展示も行われ、非常に前向きなものでした。また、この博覧会は、20世紀の社会、芸術、建築の多くの新しいトレンドの発祥の地になり、さらに、技術や市民による社会改善活動の肯定的な実態を広く知らしめた博覧会でもありました。

アメリカが目覚しい経済発展を遂げた1世紀――その収穫の時期に、成果を一堂に集めて公開したこの博覧会が、経済発展の過程で大きな役割を果たしたセントルイスという都市で開催されたことの意義は、この上なく大きいものでした。また、この博覧会が、20世紀を代表する国々にとっては、自国の経済、文化、将来の展望などを紹介する舞台となり、20世紀最初の重要な国際的なイベントとなったことは非常に意義深いことです。

同じ時期、日本においても「博覧会の時代」は開幕しました。江戸幕府が1867年パリ万国博覧会に参加して以降、日本は数多くの万国博覧会に参加しています。1877年には政府が自ら内国勧業博覧会を開催して、博覧会は国家的事業として位置づけられたのです。

海外の博覧会において、日本は伝統的な「日本イメージ」を売り込みつつ、先進諸国の最新技術を吸収し、また輸出振興を図ろうとしました。そして政府主催の内国勧業博覧会は、国内の諸産業振興を図るための重要な一手段として機能したのです。

日本はアメリカで開催された万国博覧会にも数多く参加しています。1904年セントルイス万国博覧会には、国内での内国勧業博覧会開催をひかえていたために、当初参加を見合わせていましたが、アメリカ側の熱心な勧誘、そして輸出振興の必要性から、正式参加を決定しました。

参加に際して政府は、海外で注目を浴びる美術工芸品や、日本庭園を備えたパビリオンで伝統的な「日本」イメージを演出し、一方で主要輸出品である生糸や、その他醤油、酒、素麺、菓子などを出品して、今後の輸出振興を図ることを目的としました。

アメリカ側は、観客の注目を集める日本の伝統的なイメージ演出を必要とし、日本は博覧会を輸出増進のための強力な広告装置として利用したのです。すなわち万国博覧会には、開催国と参加国とのある種の「綱引き」が存在しているのです。

Chapter 6:
Japan and America Meet in 1904 at the St. Louis World's Fair

The 19th century was the era of world fairs. Since the International Expo was held in London in 1851, world fairs swept through the world, and various cities and countries became their host. At world fairs, just about anything and everything were gathered from various regions of the world, and people could experience the "miniature of the world" by walking around the exhibition hall.

Around the same time, Japan jumped on the bandwagon to enter into the era of world fairs. Since the participation of the Tokugawa shogunate in the Paris International Expo in 1867, Japan participated in many world fairs. After the government initiated to hold the Domestic Industrial Expo in 1877, world fairs became a national enterprise.

While promoting the traditional images of Japan at the fairs overseas, Japan also tried to absorb brand-new technologies from the West and to promote export. Domestic Industrial Expos under the auspices of the government served as an important means to encourage home-grown industries.

Japan participated many times in the world fairs held in the US. The 1904 World's Fair in St. Louis was the first large-scale fair held in the 20th century US. Japan at first did not plan to participate because of the domestic fair it was planning; however, it turned its decision around and participated, due to the enthusiastic invitation extended by the US as well as its need to increase export.

At the St. Louis Fair, the Japanese government tried to promote a "Japanesque" image by setting up a pavilion equipped with traditional arts and crafts and a Japanese garden. Aiming to increase export, Japanese major products such as raw silk, soy sauce, *sake*, *somen* noodles, and sweets were exhibited.

The US wanted the Japanese traditional image to attract more people, and Japan used the fair as a powerful PR device to increase export. World Fairs had an aspect as a field of a tug of war between the host country and the guests.

In summary, from the mid nineteenth century, world fairs in Britain, France, America and Japan created an ongoing communicative soiree among the nations of the world. These fairs have been studied for their significance for generations as they have receded into history and the world no longer feels a need for them in the same guise as in the past. The world's fairs spread ideas, exposed new cultures, linked the family of man and were a source of civic pride for cities lucky enough to host one. Thus, only today's modern Olympic Games are comparable.

The St. Louis World's Fair in 1904, and its kindred World's Columbian Exposition a decade before in Chicago were later to be considered *fin de siecle* statements of the breakup of a nineteenth century sensibility in taste. Yet, St. Louis' Fair was especially forward looking in presenting not only a summation but a forecast of great things to come, globally. This Fair was the birthplace of many twentieth century learned societies and artistic and architectural trends. It also presented a very positive picture of technology and civic improvement.

It is impossible to overemphasize the significance of such a Fair coming at a time of harvest in the broadest sense of gathering and exposing the work and achievement of a century of economic progress in America in which St. Louis had played one of the most significant roles. Likewise, it is extremely significant to view the St. Louis World's Fair stage as a forum on which the nations that were to define the twentieth century would present their economies, viewpoints and cultures, and as such became the first important international event of its new century

古今珍物集覧

（ここんちんもつしゅうらん）元昌平坂聖堂ニ於て　一曜斎国輝画、1872年

1872年に東京・湯島聖堂で開催された博覧会の会場風景です。当時の博覧会は、主催した政府も出品に参加した民間側も、博覧会は骨董・珍品の展示会だと考えていました。国内諸産業の発展・奨励を基本的な目的とした内国勧業博覧会の精神はまだ見られず、無秩序で雑多な陳列の様子が窺えます。1871年から1873年にかけて米欧諸国を視察した開明派官僚が帰国した後、本来の博覧会が構想されるようになりました。

雑多な珍品には、観客もさぞ興奮したことでしょう。

"Kokon chinmotsu shuran Moto-Shoheizaka seido ni oite"

The Exhibition of Treasures, Old and New, Held at the Shrine of Confucious Temple in Moto-Shoheizaka. Ichiyosai Kuniteru, 1872

This is a picture of the exhibition hall at the fair held in Yushima Seido, Tokyo in 1872. In those days, both the government who hosted the fair and people who submitted materials regarded fairs as an opportunity to exhibit antiques and curios. At that time, the spirits of the Domestic Industrial Fair, which encouraged the development of various domestic industries, was yet to be developed. In this picture, we can see miscellaneous items on display in a disorderly fashion. It was not until the bureaucrats of the Innovative Party (kaimei-ha) came back from their Euro-American tour from 1871 to 1873 that fairs in Japan began to look more authentic.

People must have been quite excited at the sight of various strange items!

古今珍物集覧　元昌平坂聖堂ニ於て、1872年

kokon chinmotsu shuran Moto-Shoheizaka seido ni oite

"The Exhibition of Treasures, Old and New," Held at the Shrine of Confucious Temple in Moto-Shoheizaka

内国勧業博覧会　機械館の図、1877年

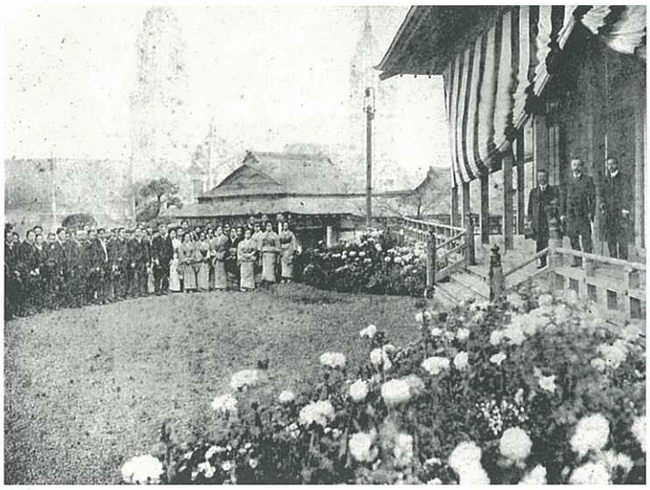
naikoku kangyo hakurankai kikaikan no zu

The First National Industrial Fair (1877): The Pavilion of Machinery

セントルイス博覧会における日本政府館、1904年

Sentoruisu hakurankai ni okeru Nihon seifukan

Japanese pavilion in 1904 World's Fair in St. Louis



The St. Louis World's Fair

In 1904 the world literally came to St. Louis, a powerful trading city which rightly felt it was one of the economic and cultural centers of the globe. This forum of economic prowess, culture, the humanities and entertainment allowed many nations, such as the emergent Japan, and the United States itself to present their stories in an international light that was never to be duplicated. Light, indeed, became a visual metaphor of progress. Below is a photograph of the "Palace of Electricity", lit electronically at night with the rest of the World's Fairgrounds, an awesome spectacle for hundreds of thousands of people, most still who used candles and kerosene lamps to chase away the darkness of nightfall. The reflecting pool in the foreground was excavated to enhance the splendor of these special moments at the turn of the century in the heart of an America congratulating itself on a century of progress, and the pool still exists in Forest Park in the city, a park designed by the architect of the smaller Central Park in New York City, Frederick Law Olmsted.

セントルイス博覧会

１９０４年、文字通り世界がセントルイスに集まりました。交易の都市として栄えたセントルイスには、世界の経済的、文化的中心地としての自負がありました。経済、文化、人文科学研究や娯楽の集まる広場とも言える博覧会は、新興国日本やアメリカなど多くの国々が、国際的な観点に立って自国の物語を語る、またとない機会になりました。そして“灯り”が、まさに進歩の視覚的なメタファーとなったのです。下にあるのは、博覧会の会場と共に、夜、電気が点された「電気の宮殿」の写真です。当時、まだ蝋燭やランプを使って夜の闇を追い払っていた何万人もの人々にとって、これは素晴らしい光景であったことでしょう。手前の、光を反射しているプールは、こうした特別な瞬間が更にその輝きを増すためにと造られたもので、新世紀への端境期に、過去１００年の進歩を自ら祝福するアメリカの心を象徴しているとも言えます。このプールは、今でもセントルイスのフォレスト・パークにありますが、この公園を設計したのは、ニューヨークにあるセントラル・パークの設計者であるフレデリック・ロウ・オームステッドです。

"Palace of Electricity Illuminated" from an original photograph.

「電気イリュミネーションの宮殿」、オリジナル写真

"Ainus, the Aborigines of Japan" part of the Fair's folk heritage presentations.

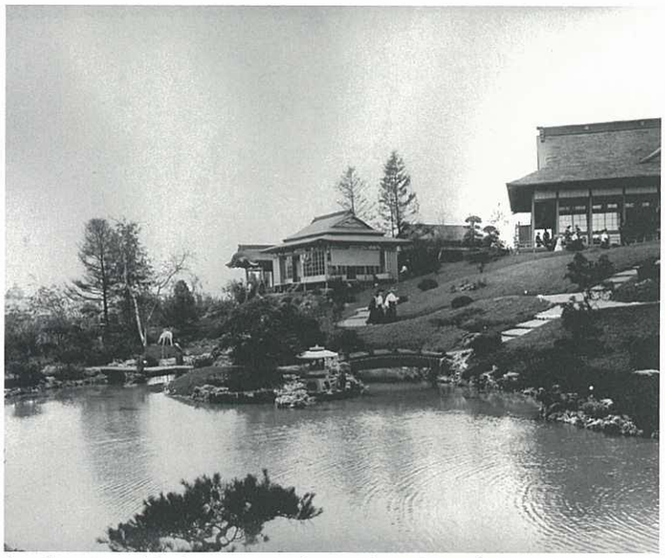
「日本先住民族、アイヌ民族」、セントルイス博覧会における民族史に関する発表

"Garden and Lake of Fair Japan, on the Pike" an early photograph from a St Louis World's Fair album.

博覧会会場脇の美しい日本庭園と池、
セントルイス博覧会の写真アルバムより

"Birds Eye" from the Observation Wheel showing the Japanese exhibits in the foreground at the St. Louis World's Fair.

セントルイス博覧会における日本パビリオンの近景、観覧車からの鳥瞰図



Another view of the Japanese Pavilion and Garden at the St. Louis World's Fair of 1904.

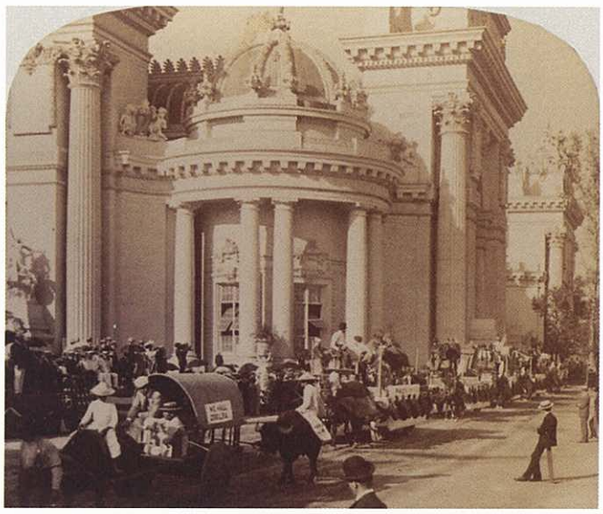
セントルイス博覧会における日本パビリオンおよび日本庭園の景観、1904年

Stereo view card of a scene on the grounds of the Japanese exhibition at the St. Louis World's Fair.

セントルイス博覧会における日本パビリオンの風景、ステレオ・ビュー・カードより

"Primitive Methods of Carrying Freight and Passengers" in the St. Louis World's Fair Transportation Building, 1904.

セントルイス博覧会　交通館
「貨物および旅客移送の原始的方法」、1904年

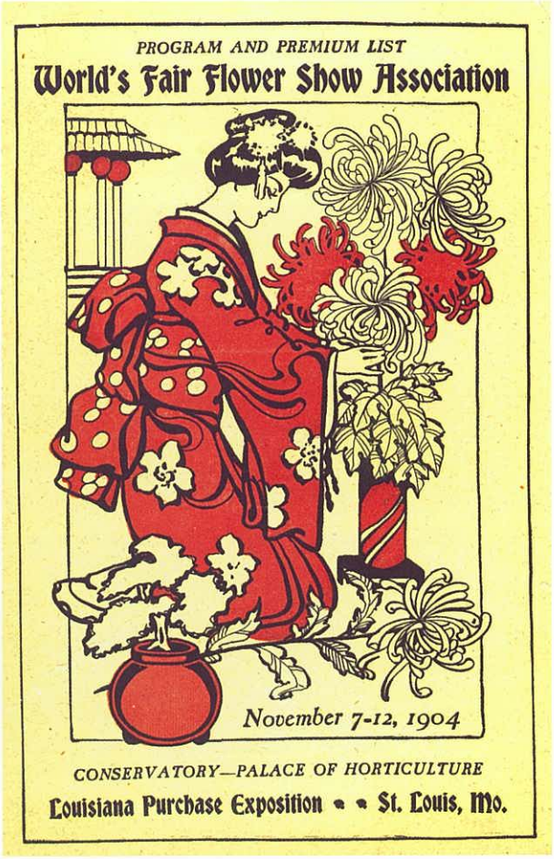


Stereo view card of "Transportation Day Parade" at the St. Louis World's Fair.

セントルイス博覧会の「交通の日パレード」、ステレオ・ビュー・カードより

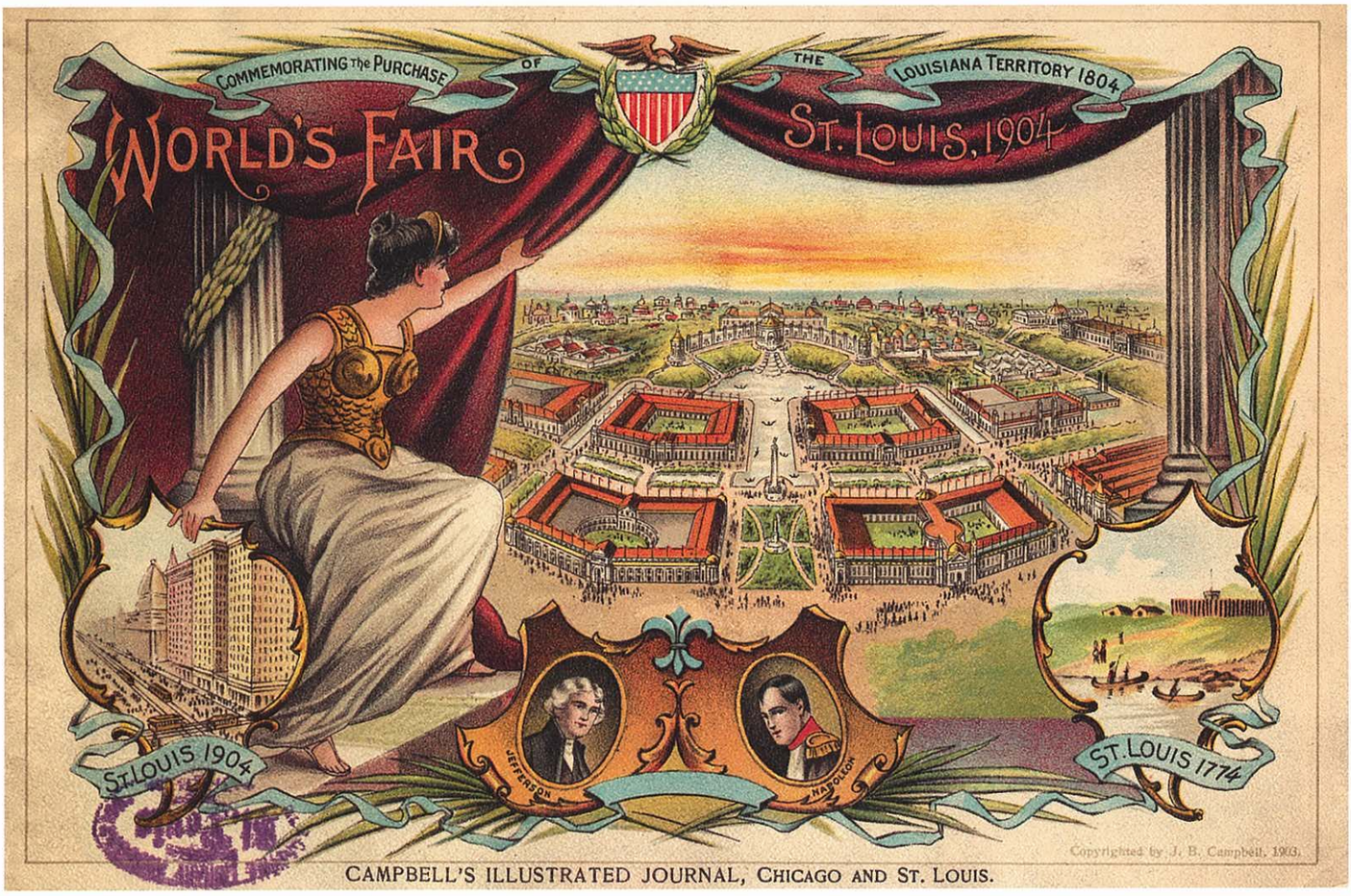
"Entrance to Section of Japan in Palace of Varied Industries" at the St. Louis World's Fair, from an early photo album.

セントルイス博覧会「様々な産業の展示会場における
日本セクションへの入り口」、初期の写真アルバムより



St. Louis World's Fair Flower Show Program, November 7-12, 1904.

セントルイス博覧会におけるフラワーショー・
プログラム、1904年11月7日－12日



Early publicity for the St. Louis World's Fair.

セントルイス博覧会に関する初期の広告